



奈良
NARA

高取町

たかとり
めぐり

ゆっくり時間ときが流れる
高取城跡と城下町

Takatori

壺阪寺

MAP G-6

壺阪寺・壺阪観音の通称で知られる、真言宗豊山派の寺院。正式には壺阪山平等王院南法華寺という。西国三十三所觀音靈場の第六番札所として古くから信仰を集め、本尊の十一面千手觀世音菩薩は眼病に靈験あらたか。寺宝の『南法華寺古老伝』によると創建は大宝3(703)年、元興寺の僧・弁基大徳が開基上人であった説が有力とされている。創建については『帝王編年記』10巻、大宝3(703)年の条にも「造高市郡南法華寺」と記録がある他、現存する文化財の様式を見ても文武天皇が大宝律令を施行した時代と考えられる。国の重要文化財に指定されている三重塔の心礎、出土した古瓦などの状態はほぼ白鳳末期の様式である。

住 高取町壺阪3 TEL 0744-52-2016

時 8時30分~17時

料 おとな 600円 / 高校生以下 100円



寺社・仏閣



子嶋寺 MAP F-3



壺阪寺に次ぐ古刹。創建については諸説あるが、寺伝では孝謙・桓武天皇の病を癒した報恩大徳により、天平勝宝4(752)年に開かれたとする。一時は21坊もの伽藍を誇り、大和國の觀音靈場として信仰を集めた。山門は高取城二ノ門を移築したもの。
※現在は、外からの拝観のみ

因光寺 MAP B-6



大和清九郎の菩提寺であり、敷地内には「大和清九郎会館」がある他、250回忌を記念した銅像や墓碑も拝観できる。清九郎の遺品や関係文書・図書などを公開する会館の見学は、事前に問い合わせが必要。

光雲寺 MAP B-3



南北朝時代初期の貞和2(1346)年に興雲寺と称し、越智氏の菩提寺として建立されたのが始まり。その後、室町初期の文安3(1446)年に復興開基されて繁栄するも、天正年間に越智氏の没落で衰退。元禄11(1698)年に再興してからは寺号を光雲寺と改めた。本堂は県の重文に指定されており、山門前には樹齢1000年近い厄除け杉がそびえる。



大和清九郎 銅像

常楽寺 MAP C-6



身代わり地蔵



奈良の昔話として語り継がれる「身代わり地蔵」は、谷田地区の常楽寺に安置されている。かつての村には寺の年貢米を育てる田があり、上と下で半分ずつ田を世話する作人が2人いた。

ある夜、下の作人が自分の田から水を盗んでいると疑った上の作人は、夜の山で待ち伏せて怪しい人影に矢を放つ。翌朝、寺に参るとその矢は地蔵に突き刺さっていたという。

岡宮天皇真弓丘陵 MAP E-3



草壁皇子が葬られたと考えられる陵墓。柿本人麻呂に求めた挽歌は後の持統天皇の息子への情愛がうかがわれる。

齐明天皇陵(越智岡上陵) MAP C-3



齐明天皇と間人皇女(はしひとのひめみこ)、大田皇女(おおたのひめみこ)の墓。母と娘がひとつの古墳に合葬され、さらに孫娘の墓を陵前に造るなど、三代つづけての親子愛にあふれている。

御陵・古墳

与楽古墳群(国史跡) MAP D-2

■カンジョ古墳



直径20m前後の円墳と見られていたが、平成20(2008)年の再調査によって一辺およそ36mの方墳と判明した。特筆すべきは横穴式石室の天井が極めて高いこと。明日香村の石舞台古墳(高さ4.8m)をも凌ぐ、5.27mという県最大の高さを誇る。

■寺崎白壁塚古墳



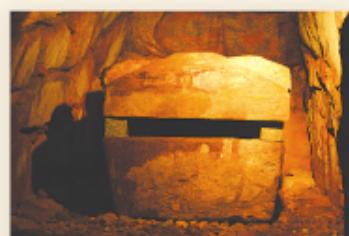
基壇上に墳丘の下段・上段を造った方形墳と見られてきたが、高取町教育委員会の発掘調査で南北2ヶ所の墳丘裾から角が検出。八角形墳であった可能性が高く、出土した遺物などから築造は7世紀前半と推測される。「白壁塚」と呼ばれる由来は、横口式石槨の石材間に白い漆喰が塗り込められていることから。

■罐子塚古墳



墳丘は、直径2.8m高さ9mの古墳時代後期の円墳。古墳の築造は6世紀後半で石室の構造や副葬品などから渡来系氏族漢氏の盟主墳と考えられる。

市尾宮塚古墳(国史跡) MAP C-4



市尾墓山古墳と同じく、大型の横穴式石室を備えた前方後円墳として国の史跡に指定される。菅原道真公を祀る天満神社の境内にあり、石室を閉ざす柵に近付くと自動的に照明が点き、石棺の眠る玄室が見学できる。馬具や太刀の装飾品といった多数の副葬品が発見されており、東嶋町の藤ノ木古墳を上回る豊富な遺物があったと見られる。

市尾墓山古墳(国史跡) MAP C-4



全長66m、高さは10mに及ぶ、古墳時代の後期を代表する典型的な前方後円墳。高取町教育委員会と奈良県立橿原考古学研究所が行った昭和53(1978)年の発掘調査では、後円部に横穴式石室が見つかり、凝灰岩製の巨大な家形石棺も確認された。昭和56(1981)年に国指定史跡となるも、現在は公園として整備され、外から内部を見学したり、墳丘に登ることも可能。

束明神古墳 MAP E-3



草壁皇子の墓として管理される岡宮天皇陵の東南部、佐田集落の春日神社境内に残る。発掘調査の結果、凝灰岩の切石を積み上げた特殊な横口式石槨を持つ、大規模な終末期古墳であることが判明。また、出土品と歯牙の理化学的分析、文献や伝承などからも総合的に判断して、束明神古墳こそ草壁皇子陵であった可能性が高いと見られる。

日本遺産

高取 TAKATORI JAPAN HERITAGE



猿石 MAP I-5

高取城の二ノ門を出て、城下町へ下る大手筋と明日香村方面へと続く岡口門の分岐点にひっそりと佇む。城の石垣に転用するため飛鳥から運ばれてきたという説や、郭内と城内の境目を示す「結界石」であるという説が残されている。高取町の指定文化財。

波多鹽井神社(はたみかいじんじゃ) MAP D-5



平安時代の法令集「延喜式」神名帳に記載がある、高取町で唯一の由緒ある式内大社(しきないたいしゃ)。「続日本記」などによると、神護景雲4(770)年には存在したとされる。推古天皇が百官を従え、612年葦原を行った地であり、男性は鹿を狩り、女性は葦草を摘む葦原は端午の節句の起源ともいわれている。

人頭石 MAP F-4



もてなしの場の装飾として造られたとされ、飛鳥の宮殿を訪れたベルシャ人の顔ともいわれている。



紀路(きじ) MAP C-5

下ツ道の南への延長で、紀伊国へと続く古代幹線。この沿線上に古墳や寺院・瓦窯跡が見つかっている。

城・城下町

高取城

MAP I-6



在りし日の高取城

岡山の備中松山城、岐阜の美濃岩村城に並ぶ日本三大山城の一つ。城は標高583.6mある高取山の頂に築かれ、城内周囲は約3kmにも及ぶ。現在は緑に覆われ、石垣を留めるのみの姿ながら、本丸・二の丸跡の立派な石垣からは往時の榮華が感じられる。昭和28(1953)年に国の史跡、平成18(2006)年には日本100名城に認定された。

藩主下屋敷門(石川医院) MAP F-4



高取藩主下屋敷の表門が移築された重厚な構えの建物で、現在も医院として利用されています。

植村家長屋門 MAP F-4



現在も旧藩主・植村家の住居として機能するこの屋敷は元々、旧高取藩の筆頭家老屋敷であった。建立は文政9(1826)年という、近代武家屋敷表門の遺構を残す貴重な建造物であることから、奈良県の指定文化財に指定されている。正面の丘には旧藩主下屋敷・御殿跡があったとされ、近くには田塙家など数軒の武家屋敷が現存する。

夢創館(高取町観光案内所) MAP F-4



大正時代、呉服屋を営んでいた町家を改修し、町の観光案内やお土産物・地場産品の販売を行っている。

住 高取町上土佐20-2

電 0744-52-1150

時 9時30分～16時30分

休 月曜日(祝日の場合は翌日)・年末年始・お盆

たかとり 城下町 散策マップ

ようこそ
日本一の山城と兼の町に！

むそうかん
観光案内所「夢創館」



高取藩2万5千石の城下町として栄えた高取町のメインストリート。当時は500軒もの商家が軒を連ねたといい、今も低い軒先や連子窓といった古い家並みの随所に、往時の繁栄ぶりを感じることができる。両脇に水路が流れる町筋の石畳には、阪神淡路大震災の復旧工事で出た石が活用され、所々に埋め込まれた薺草タイルを見て歩くのも楽しい。